

## ブロックによる応急対策事例のご紹介



応急対策ブロック堰堤工の着工前の  
梨子沢第一砂防堰堤下流部



ビーハイブ 4t型を活用した堰堤工施工中  
(平成 26年 8月 1日据付着工)



据付完了したブロック堰堤工  
上幅 20m, 高さ約 5m, ブロック 347 個  
(平成 26年 8月 6日据付完了)

2014年7月9日、台風8号と梅雨前線の影響で発生した長野県南木曾町の土石流では、人的被害に加えて多くの家屋や道路・鉄道も被災しました。

土石流が発生した梨子沢では砂防施設にも被害が発生するとともに、堰堤は満砂状態となり、少量の降水によっても二次的災害が発生する危険性がありました。そこで、堰堤の除石作業とともに、約600個のコンクリートブロック（ビーハイブ4t型）を使用して、緊急応急対策としてのブロック堰堤工2基が構築されました。この際、火山噴火緊急減災目的で近隣に備蓄していたブロックを活用したため、土石流発生から1ヶ月に満たない8月初旬にブロックの据付を完了し、被災地を横断するJR中央本線の安全確保の一助ともなりました。

悲惨な災害からの一刻も早い復旧が必要な場合においてコンクリートブロックが役に立っているという事例の紹介をいたしました。

## ブロック備蓄・緊急対策事例



南木曾町土石流災害緊急応急対策として大梨子沢合流地点上流の小梨子沢に構築された堰堤工（上幅28m、高さ約4m、ブロック261個）



南木曾町土石流災害緊急応急対策に活用された備蓄ブロック（ビーハイブ4t型）



浅間山火山噴火緊急減災対策備蓄ブロック（ビーハイブ3t型）



浅間山火山噴火緊急減災対策備蓄ブロック（ビーハイブ3t型）



五角ブロックの備蓄状況（隙間なく備蓄できます）



五角ブロックの備蓄状況（備蓄時の天端面が平坦になります）